

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	評 価	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かでたくましい子ども	やってみよう またやりたい！	子ども達が、自分から好きな遊びややりたいことを見付け、「やってみようまたやりたい！」という気持ちをもって遊んでいる	○自分から遊びを見つけている・「明日もやりたい」「昨日の続きやろうよ」「次はこうしたい」 ○子どもと一緒に実験（試してみよう）遊び（まつぼっくりが開くまで） ●ぶつかり合ってトラブルになる・遊びを見つけれない子・ぶらぶらしている子 ●遊びをそのままにしておくことの難しさ	B	A	・個々の子どもの見方が違う所がいい。先頭立って頑張る子、私より前に出ないで欲しい子など個性が育まれる。 ・7割の子が3歳児からの入園児。またちがう個性がかかわり合い、融合していく。 ・年齢が小さいため家庭の影響が大きく、園での対応で何とか育つ面もあるが言葉も気持ちも家庭でまずフォローをしたい。 ・クールダウン（落ち着く場所）は大事。親子関係も落ち着く場所の一つである。 ・話が聞けるようになってきている。 ・「ありがとう」の言葉が友達同士でお互いに自然に言えるようになった。	・トラブルの仲立ち・遊びに誘う・遊び出しやすい玩具の準備（されていない時あり） ・マンネリ化しない教材研究・遊びの形跡の写真撮影 ・環境作りに職員間で温度差（伝えあう工夫が必要）
		子ども達が自分の思いを言葉やしぐさで保育者や友達に伝えている	○自分の思いを伝えられる子がいる「○○したかった」「○○やりたい」・「○○しよう」「やめて」・言えない子が減ってきた・「できた」と言って保育者を見てアピール ○ジェスチャーや視線で伝えようとする子の増加 ○ありのままの姿を出している・友達のよさに気付き真似する姿 ●自分の思いを伝えられない子がいる・仲立ちをして代弁中・その場に合った言葉使用の難しさ ●保育者をすぐに頼る子・保育者が入りすぎてしまう（人数が多い）	B	A		・子どもの思いのくみ取り・思いを言葉にする支援の実施・代弁する ・絵本などから言葉を広げる
		子ども達が遊びや生活の中で友達や周りの人の話を聞き、相手の思いに気づくようになっている	○泣いている子の頭をなでる、励ますなどの相手の気持ちに寄り添おうとする姿・話をよく聴ける ○「○○してるの」と友達に聞く・玩具を譲る ○乳幼児が混ざってのごっこ遊びが増える・自分と違う考えがあることに気付く ○聞き入れようとする姿の増加・相手のよい所を見つけ伝える姿・「ありがとう」が言える子の増加 ●まずは自分の主張を受け止めて欲しい子・思いが出せない子・気づけない子もいる・聞くことの難しい子・集中力が短い・トラブルの増加 ●友達のイメージの固定化	B	B		・人の話を聴く大切さの伝達・相手にも思いがあることを伝える ・友達のよさを伝える工夫 ・保育者が仲介する・クールダウンできる場の準備

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	評価	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	異年齢の子どもと関わる場を作り、つながりのある教育・保育を実施している	○異年齢での散歩・年長児企画の行事に参加・優しい声掛けの姿 ○同じ時間の園庭使用や午睡時間による交流（同じ場の共有・玩具の置場の工夫） ○園庭でクリスマスソングの踊り ○少人数を活かしかわっている ●個々の力量の差によりつながりが困難⇨普段の遊びの中の自然な交流が少ない	B	A	・物の取り扱いなど今だからしておくことが大事。三輪車を「使いたいよ」と言える。乗り合いができるようになる。 ・困ることも大事。守られて育つと葛藤に迎え合えなくなる。親子関係では円満すぎて経験できないことが増えている。 ・わかってくれるだろうと思っている場合が多い。ケンカをする中で気持ちもがやもやする経験など、年齢で感じ方も違うため繰り返すことで気持ちが育っていく。	・個々に応じた支援の継続⇨幼児の遊びに乳児を入れる機会の増加・乳児の参加の場を増やす ・会議でかかわりの環境の工夫をする ・意図的なきっかけ作り（散歩や給食など）から自然なかかわりへつなげる ⇨幼児の遊びに乳児を入れる機会の増加 ・発表会の乳児の参加の工夫（鑑賞できる場作り）
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活やリズムに合わせ、安心して過ごせるようにしている	○少人数を活かして取り組みやすくできている・個々の生活リズム（家庭での様子）に合わせている ○体調に配慮した支援 ○選番時、年齢別の時間を確保（発達に合った遊びの提供） ●クールダウンできる場がない・集団生活との兼ね合いの難しさ・物の取り扱いの増加	B	A		・家庭での様子を参考にする ・乳幼児間の情報交換（週案会議の内容検討） ・早遣番用の玩具の入替時期
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達が自分からやりたくなるような環境構成の工夫をしている	○子どもの興味やねらいに合わせていた環境・再構成・廃材遊びによる試行錯誤の広がり ●遊びやすい動線や配置（環境構成、整理整頓）の不足・三輪車の準備・園庭環境の工夫不足 ●少人数の中での保育者の立ち位置（主導しがちなかわり）・経験不足による選択が難しい子 ●遊びが広がる支援の工夫	B	B		・動線を考慮した環境構成（室内配置）・出す→遊ぶ→片付けるがしやすい環境構成 ・学年間で連携をした環境構成、「これ出して」を言わずに子どもたちが遊びだせる園庭の環境構成（子ども主体となる環境の工夫）
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	災害や事故時の役割分担を理解し、保育者も子どもも適確な行動ができるようにしている	○月に1回の定期的な訓練の実施・災害時の行動の共通理解、分担による迅速な対応ができる準備 ○災害時の対応ができつつある ●日々の安全管理、事故防止への意識不足・前回の反省の伝達共有不足・疑問点の解決、伝達	B	B	・積み重ねが線になって活きていく。経験が大切。 ・やはり震災の現場を見るとイメージが変わる。研修などで見ることも大事だと思う。防災センターなどの利用も取り入れて見ることの大切さを感じたい。	・マンネリ化しない想定工夫・全員いない時の想定・避難時持出用の衣服の依頼をしてはどうか ・危険箇所（死角・物の落下・転倒など）、子どもの危険行動の把握と対応 ・職員間の共有（災害・事故時の対応）
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが食べることを楽しんだり、意欲をもって食に関わる経験をしたりするようにしている	○育てた野菜の収穫の喜び・クッキングを通した色、形、味などの五感体験 ○食育の会や給食時のかかわりで関心が高まっている・食べれる食材の増加 ○給食展示を親子で見ることで会話につながっている ○毎月19日の食育、給食や材料の産地別展示、毎月30日のカミカミ食、クッキング、収穫野菜調理 ●栽培野菜が少なく、クッキングの回数も少ない・水やりの意識が低い・食への関心が低い子	B	A		・お楽しみ献立を毎月いれる・絵本や子どもの興味のあることを取り入れた給食やおやつ提供 ・子どもの給食の感想などを聴きたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	全職員で個々の発達を理解、共有し一人一人に合った関わりをしたり、必要に応じて専門機関と連携を図ったりしている	○担当者だけでなく職員全員の共通理解（ケース会議の実施）・伝えようという努力がされている ○専門機関との連携 ●支援が必要な子が多く、共通理解が困難(全職員に回るまでに時間がかかり情報が変わってしまう)・専門機関などからの情報伝達不足・ケース会議の記録の明確化・一人ですっきり取り組める環境作り	B	A		・配慮が必要な子のその時の配慮事項の焦点化（ポイント）サポートプランはさっとわかりにくい ・専門機関からの情報などの伝達
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当園務分掌を各自意識し、企画、提案、計画に基づいた遂行、協力して教育・保育を進めている	○企画書の配布（全職員）・計画に基づいた実施・各分掌担当者による推進・職員会議後の伝達実施 ○協力できることをしている ●全職員の共通理解不足（分掌ごとの業務内容が不明瞭）・早期伝達（間際にならないように）・変更内容の伝達不足 ●担当に任せきりになってしまう・リーダーの負担が大きすぎではないか	B	B	・継続は力なり、今後も頑張ってください。 ・子どもがとっておいた物の扱い方（管理の仕方）の工夫・年間の行事検討 ・自然物を使った遊びの教材研究・地域の自然活用（散歩先の環境把握）	・定期的な分掌担当者の話し合いによる意識向上 ・計画的な立案と準備
6 研 修	(1)研修体制の充実	公開保育や教材研究を通して、研修テーマに沿った研修を行っている	○事前、事後研修後のまとめの資料配布による共通理解・研修テーマに沿った研修の実施 ○一人1回の外部研修、公開保育参加により資質向上、園の保育の見直し、環境の充実につながる	B	A		・年に1回なら負担も少なく、次年度も継続したい ・研究保育後、指導していただいたことの持続が難しい ・負担が多いため普段の保育を見合ってはどうか。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節や発達に応じた遊びに合わせて「またやりたい」と思えるような教材や環境を整えている	○子どもの姿からの教材提供、再構成による「もっとやりたい」という意欲向上実施 ○行事による環境の変化あり・年長児が中心になり園全体の行事につながる ●環境構成（配置など）や使用方法の工夫不足 ●秋の自然物の遊びの不足	B	A		・対面での情報伝達を希望される保護者への対応・手紙での対応
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子ども達の遊びや生活の様子、園の取り組み等を保護者にわかりやすく伝え、子どもの育ちを共有している	○写真の掲示でわかりやすい・伝えることは伝え共有を図っている・お散歩マップの掲示 ○保護者との信頼関係による育ちの共有化・空き箱回収時に子どもから園の様子を伝える姿があった ●伝えきれていない所あり（ボード・ドキュメンテーション・配信だけでは伝えきれない） ●コモンの配信が増え、伝わりづらさを感じる	B	A	・子育てサロンの参加者も幼くてまだ歩けない子の参加が増え、歩くようになると園に入園している。 ・サロンでチラシの配布をお願いする。	・年間で見通しをもって交流できるように連携する ・普段の遊びがじっくりできるように無理ない回数を考える
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	自分達から積極的に近隣の小学校や園との交流を図っている	○学校行事の見学、トイレの使用の交流・職員の合同研修参加 ○視覚特別支援学校との定期的な交流・2、4歳児と春日こども園へ（山登り体験）・八幡こども園との交流（年長）・近隣園などの研修交流 ●回数が少ない（特に小学校との交流）・自分たちから交流の機会を作ることが少ない	B	B		・積極的に地域に出掛ける・地域への親しみ、親しまれる園作りにつなげる ・お散歩マップにツリーや自然物のある所を入れる ・おしゃべりサロンのポスター作成・掲示
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○散歩時の挨拶・勤労感謝の訪問（プレゼント渡し）・後半になって戸外に出掛ける機会が増えた ○散歩マップや散歩に出かけることで地域に目が向く・保護者との情報伝達になっている ○いきいき教室、おしゃべりサロンの実施・気象庁にて（四季の変化）、店舗（エンチョー、ヨーカドー）にて行事の様子 ●触れる機会が少ない・おしゃべりサロンの周知	B	A		